

学習内容報告書 フォーマット

学校名	神戸市立浜山小学校
授業者	大学教授・元水族園園長・みなと総研

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「アマモ」をしらべよう

1-2. 学年

4年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

4年（総合的な学習）

1-4. 単元の概要

国土交通省と神戸市港湾局、地域、学校が連携して、本校前の兵庫運河に港湾整備に伴い解体された神戸港の防波堤から発生した砂や岩などの資材を再利用して、生き物の産卵や幼生の育成となる浅場（干潟）が昨年10月末に完成した。昨年は国土交通省、神戸市港湾局、兵庫漁協、兵庫運河を美しくする会など、多くの関係機関のご協力のもと、全児童に兵庫運河について知ってもらう学習の場を設定して頂いた。浅場での生き物調査、大学の先生から干潟造成の目的と兵庫運河の役割の講話、神戸の漁業とこれからの夢を漁師さんから学んだ。それから1年が経ち、浅場の様子はどうなっているのか。兵庫運河を守っている地域の方々は今どのような取り組みをしているのかを地域の方や関係機関の方に教えてもらう。今年度は、秋に水草の「アマモ」を種から育てる取り組みに参加することから、専門家からアマモについての話を聞き、海の再生のために必要な事の中にアマモが関わることを学び、自分たちが植えたアマモが育っていく様子を観察していく。春には育ったアマモを兵庫運河に植え、継続して環境教育に取り組んでいく。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

地元の宝である兵庫運河と茅渚の海を守り育てる活動を、地元の漁協や企業等で組織する「兵庫運河を再生するプロジェクト」の一員として、教育活動の側面から学校も協働で取り組んでいく。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

命の学習として、人と環境や生き物同士のつながりを学んでいくことで、かけがえのない身近な自然や生き物と人々との繋がりを知り、自然や生き物を大切にする心を育て、自らそれらを守り育て未来へつなげていく子供たちを育成していく。

1-7. 単元の展開（全3時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 . 2 . 3	<p>①大学の先生から学ぶ 徳島大学の中西敦先生 神戸の水環境と兵庫運河の再生について学ぶ。 神戸の海の再生に必要な事の中に水草のアマモが必要であることをクイズを交えて学ぶ。</p> <p>②元須磨水族園の園長から学ぶ 吉田裕之先生 海に生えている植物・海藻と海草について学ぶ。 アマモが生える場所について学ぶ。</p> <p>③海に関わる仕事をされている方から学ぶ みなと総研 職員の方から アマモ場再生活動の実際を知る。 アマモの発芽と生育の観察について知る。</p> <p>④アマモの種植えを実際に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターで画像を用いながら難しい内容を子供達に分かりやすく提示した。 ・実際に水族園でアマモ場を作る取り組みを映像などを用いて紹介する。 ・実際に種を植えるにあたっての手順や注意事項などを教えて頂く。 ・兵庫漁協の方に植え方を再度教えてもらいながら水槽に用意された場に、一人2粒ずつ種植えを行う。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ




単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

1 日の中での学習活動のため、以下は各学習時についての画像を掲載

2-3. 本時の展開

主な学習活動	活動の画像
①大学の先生から学ぶ	
②元須磨水族園の園長から学ぶ	
③海に関わる仕事をされている方から学ぶ	

3. 今回の活動の自己評価

- ・子供たちは、6月に兵庫運河の浅場（あつまれ生き物の浜）で実際に生き物調査を行っている。完成してから1年が経ち、昨年よりも生き物がたくさん生息していることが分かった。また、海中の生き物が増えたことで、サギなどの鳥も見かけるようになったことも実感している。確実に生き物にとって住みやすい場へと良い変化が起きていることにも気づいてきた。アマモの生息によって兵庫運河にもたらす環境への影響を初めて専門家から学び、興味をもって学習に取り組んでいた。
- ・地域の方々と一緒に行う体験活動を通して、地域の方々の様々な思いを感じることができ、地域の方々と触れ合い、地域のことをより深く知り考えることにつながった。
- ・海を守る専門家の方と身近に関わり、初めて知ったことが多く、興味を持った児童は積極的に質問をしたり熱心に聞き入ったりしていたのが印象的だった。専門家の熱い思いを感じられたようだった。

4. 今後の課題

- ・今年度も引き続き、コロナの影響で、予定していた活動が十分にできないこともあったが、できる範囲での体験活動ができるように今後も取り組んでいく必要がある。
- ・子供達自身、まだまだ分からないことが多く、関係機関の方々に教えてもらっている受け身の学習となっている所は否めない。今後学習を進める中で、子供達から自発的に活動していけるような意識付けを行っていきたい。自分たちが植えたアマモがこれから育っていく様子をしっかりと子供達と共に共有していくようにする。
- ・今年度の取り組みを基に、兵庫運河での学習などを教育課程に組み込み地域学習として位置付けていく。また、兵庫運河での海洋学習をスムーズに実施できるように今後は学識者や漁協、教育委員会等からアドバイスをいただきながら、学習計画を確立していきたいと思う。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・新しい浅場については、「兵庫運河港湾再生材活用・干潟実証試験場」として普段は施錠をして管理されている。以前から整備されている小規模の浅場「きらきらビーチ」もさらに活用していきながら兵庫漁協や兵庫運河を美しくする会関係機関とさらに連絡を取りながら、学習を進めていく。今回、アマモを種から育てる活動をするにあたり、ウェストライオンズクラブから90cm水槽を寄贈して頂いた。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウトフォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。